

②来季の観光シーズンを踏まえ南房総全体でのPR及び戦略を提案してほしいか。

◎答弁：安房三市一町では、既に「南房総地域観光圏整備推進協議会」や「南房総観光連盟」などの広域連携による団体が立ち上がっており、統一のテーマでの観光事業の実施や統一パンフレットの作成による、南房総としての観光キャンペーンを実施してきました。昨年度から富津市が新たに加わり、四市一町で「宿泊・滞在型観光推進協議会」が発足し、神奈川や東京などからの観光客の誘致と観光PRを実施。今後も更に連携を深め、面としての観光資源の開発や、日本全国や外国に向けてのPR誘致に努めていきます。

三 館山市稲村城跡の活用について伺います。

市の東部に位置する稲区に南総里見氏稲村城跡があります。かつて工業団地への進入路建設に伴い、その開発から文化的・学術的価値のある城跡を守ろうと愛沢伸雄先生を中心に「稲村城跡を保存する会」が結成され今日に至っていることは多くの方が知っております。この会の目的は保存から史跡指定までの継続的な取り組みであ

り、国指定史跡の可能性が見えてきた今日までの地道、かつ広範な活動に、まず敬意を表したいと思えます。

①今日までの史跡保存と国の文化財指定に向けての活動から、更に今後の展望を伺います。

◎答弁：史跡保存と文化財指定に向けての活動については、地権者の同意を頂いた区域について、平成二十三年七月下旬、文部科学大臣宛に国史跡指定意見具申書を提出したところです。

②指定が実現した場合、波及効果は大変に大きいものがあると感じます。この城跡の活用について市の考えを伺います。

◎答弁：今後の城跡活用については、指定された場合、地元の見解を尊重した上で、保存整備検討委員会を立ち上げて計画的な保存と整備を行い、観光資源としての活用も図りつつ地域振興に結びつけていきたいと考えています。

### ◆再質問でさらに踏み

以上が今回の私の質問と市側の答弁要旨です。

ところで、これらの答弁を受けて、さらに「再質問」として、より具体的な政策実現へ向けての答弁を引き出す、あるいは行政に対し深く斬り込むというのが肝要となります。



龍崎・瀬能議員街頭演説風景（9月市内カインズ前で）

広報誌「議会だより」では、紙面の都合上、質問や答弁の内容は要旨のみしか紹介されず、それを読んだだけでは質問者の意図や狙いは十分に理解できません。むしろ、最初の質問は、再質問で核心に迫るための準備段階として行なうという場合も少なくありません。そこで、一般にはあまり公表されない「再質問」の部分を掲載してみます。

一、防災対策の進捗状況について。

①東海、東南海、南海地震及びこれらの3連動地震などは三〇年以内に発生の確率が高いと言われておりますが、当面とりうる防災対策の完成はいつ頃を目途に進めていますか。

②避難経路マップの作成と配布も大事ですが、標識や案内板での表示についてはいかがですか。

また、避難所や津波一時避難ビルの増設とのことですが、他地域からの方々にもわかるように、周辺に表示されていますか。

③自主防災組織の活動マニュアルを各町内会、自治会に配布し、あらたな組織の立ち上げや、組織強化の相談がありましたか。

④共助の視点での防災対策を考えると、環境および施設整備、あるいは防災機器の充実も大切ですが、「助け合うところ」の育成が大事であると思えます。現在災害支援ボランティアの活動をとおして、災害現場を目的の当りにして被災者と接しているメンバーがいますが、これらの方々の活動は大変意義深いと思えます。これら諸団体の活動をどの程度把握していますか。また、団体への支援をしていますか。

⑤大変多くの労力と支出を伴うこれ

ますか。

④地域振興に活用したいとの答弁ですが、地元周辺地域の振興策と合わせ、どのように活用するか伺います。

以上、最初の質問に対する答弁を受け、広くまた細かなところまで広げていくのが再質問です。いわば政策実現を見届けるための大事な詰め作業といえます。

### ◆市民相談 要望を受けて ◆

五月から議員活動をスタートして以来、市民の皆様から相談や要望が多数寄せられています。

分類すると、道路側溝整備関係七件、環境・社会安全関係六件、福祉教育関係六件、複数回の相談でも一件は一件などです。道路補修は緊急性がある場合は優先的に行われますが、現在百件程の要望を受けているとのこと、今後深刻な問題となるのは、空き家対策と思われれます。理由は様々であれ、無人の住居が廃屋状態になることは、災害や防犯の観点からしても大変危険であると思えます。教育・福祉関係については、いち早く担当課に相談することが解決の近道となると思いますが、不明な点は遠慮無く「相談下さい」。

等、異業種が容易に絡みあえるのが観光産業の利点です。観光関連従事者がどれくらいか伺います。

三、里見氏稲村城跡について

①基本的な稲村城跡の意義についてどのように考えていますか。

②文化財に指定された場合、整備事業に関する公的資金の負担割合を伺います。

③里見氏の歴史をNHKの大河ドラマにと活動されている方々がいますが、市は事務局的な後押しなどをしています。

通常、複数の観光施設等を回ります。この入込数はダブルカウントされている数字ですか。（実際の入込数はこの数字を下回るのでは）

②昨年の来客数を一六二万人とするならば、全人口の三二倍の観光客が訪れているという現状の中で、観光客の満足度評価や意見要望を把握するためのアンケートを行ったことがありますか。

③館山市の就業人口における一次産業従事者は一〇％以下、三次産業は一万七千人、七一％です。観光農業

## 中 道

### みなとめぐり



大盛況で終わった南総里見まつり。第三〇回記念の今年は参加者延べ十万人と、過去最高のイベント行事になりました。初日はもとより二日目の会場も被災地宮城県や甲府からの出店に長い行列ができ、同時開催の郷土芸能祭も盛上げに花を添えるなど、大勢の来場者を魅了しました。三月以来の停滞ムードを払拭しようという市民の熱意が伝播したのでしよう。

私たちは、今でもどこか「東北」を語り合います。津波被害を受けた田畑は二万ヘクタールにおよび、大半が耕作を断念したといえます。関係者の無念はいかばかりか。幸運にも南房総の稲作は放射性物質も検出されず、その上例年よりも豊作が見込まれ、今までは当然のようだった秋の刈入れも、今年はかりは深い安堵と感謝の喜びに包まれています。

私の好きな浅田次郎の言葉が心に染みます。

被災地の惨状に一度は無力感に苛まれましたが気づいたことは「分」を守れ、「分」を尽くせ」ということです。「分」とは、自分がやらなければならない職分、範囲のこと。「誰にでも自分で積み上げてきた努力がある。まずはそこで最善を尽くす——自分の仕事や行動が社会の一部を構成していることは間違いないのだから——」分」を絶対に放棄してはならない」（潮「九月号」）。この自分の「分」を守り、「分」を尽くす努力が必ず被災地を支えることにつながる、と述べています。例えば農家は今まで以上に良い作物を作る。スポーツ選手は良いプレーをする。小説家は人を感動させる小説を書く、ということですね。ほんの少し、今までよりも人に尽くし、感謝を表すという努力が、自身の心と社会を豊かにするのです。復興支援、さらに経済の活性化という大きな課題を抱えながらも、今こそ「日本全体がさらなる前進の一步を踏み出すとき」と考えてみるのはいかがでしょうか。

（龍）